

町田をもっと楽しむためのコミュニティマガジン



# まちびと

MACHI  
BITO

2017 秋冬

TAKE FREE



特集◎

## マチダ ノスタルジック

鶴川団地セントラル商店街

# 大切にしたいもの、 残したいもの。

昔からいつもそこにあつた当たり前の風景や

いつも声をかけてくれた顔見知りの人たちが

ふと気づいたらいなくなっていて

寂しい想いをしたことはありませんか？

お母さんと通ったお風呂屋さんや

家からボウルを持って買いにいったお豆腐屋さん

おめかししていった写真館。

パック詰めされたものが大量に並ぶスーパーは便利だし

小さなボックスの中で写真はいつでも撮れるけれど

ヒトとの関わりは希薄になって

隣に誰が住んでいるのか分からなかったり

形ばかりの挨拶は目を合わせることもありません。

不便だったり、めんどくさかったり、煩わしかったり

そんな不自由さえも愛おしくなってきたら

私たちの生活はもっと豊かになるのかもしれない。



発行日 2017年11月15日
発行 町田市市民部市民協働推進課
企画・制作 株式会社VisionDesign
表紙撮影 竹之下三緒

6 特集1
マチダ・ノスタルジック

10 特集2
森村 誠一
可能性を追い求める 永遠の狩人

12 特集3
真鍋 淳一
鶴川から全国に響く
美しいハーモニー

14 街を歩く
鶴川

16 Theまち人 file015
原町田四丁目第一町内会

18 Theまち人 file016
町田の子ども食堂

20 マチダdeグルメ
愛しのレトログルメ

22 Machibito-Snap
「町田の懐かしい思い出」

24 まちびと写真館 其の八

25 NEWS & INFORMATION

26 プレゼント&アンケート

28 カイルカードのマチダ・ダマシイ

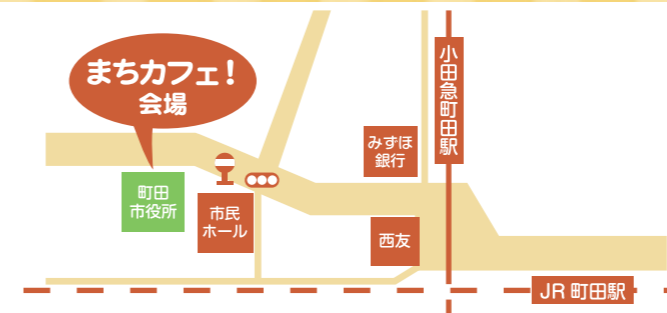
29 まちびとひろば



この冊子は40,000部制作し、1部あたりの単価は69円です
(職員人件費を含む)

\*本紙掲載の写真・記事等の無断転載および複写を禁じます
\*尚、本紙の表記内容は2017年11月15日現在のものです

まちカフェ!
第11回市民協働フェスティバル
いいことさがし
~魅力と個性をシェアするまちだ~
2017年12月3日(日) 10時~16時
町田市役所 1~3階および外の一部
主催:まちカフェ!実行委員会



名称
交差点 町田市役所
バス停「町田市役所市民ホール前」
交通手段
●小田急線町田駅西口から徒歩約8分
●JR横浜線町田駅中央口小田急線連絡口から徒歩約11分
●バス停留所「町田市役所市民ホール前」下車徒歩約1分



旧国鉄原町田駅(1971年)



『かけ足通り』(1980年)

石坂丈一 ● 1947年、町田市野津田町生まれ。2006年から町田市長。パードウォッチングと版画が趣味。カラオケの十八番は吉田拓郎

町田市長 石坂丈一さん  
農村伝道神学校の牛乳  
原町駅と  
かけ足通り



昭和40年代後半から、町田が商業都市として発展していく一方、街の様子はどんどん変わっていった。国鉄原町田駅が移転し、懐かしい場所やお店が次々となくなり、新しい商業施設が立て続けに建設された。特に駅周辺の変貌は凄まじく、当時の面影は殆ど残っていない。

01

記憶の中の、

大切な場所

Ask to Machida lovers

特集1  
マチダ・ノスタルジック

町田で出会える  
懐かしい場所、残したいもの。

見慣れた街の風景や  
ノスタルジックな雰囲気漂うお店たち。  
これからも大切にしたい、私たちのマチダ。



ピザハウス ボロ (町田市中町)



2014年、惜しまれながら55年の歴史に幕を閉じた

三浦しをん ● 小説家。まほろ駅前多田便利軒で直木賞、『舟を編む』で本屋大賞受賞。10歳から約20年を町田で過ごす。映画『光』が11月25日、全国公開



作家 三浦しをんさん  
珈琲の殿堂 プリン

窓辺に見える大量の植物が気になっていた三浦さんが初めて足を踏み入れたのは大学生の時。以来、窓際の丸いソファでアイスコーヒーやレモンスカッシュを飲みながら寛いでいたという。



長閑な農村風景が広がっていた昭和30年代の小野路町

小島資料館 館長 小島政孝さん  
旧小野路分校の見える風景

鶴川小学校小野路分校に4年間通ったという小島氏。真ん中の階段を登ると校舎があり、裏山から右手に鎌倉古道が通っていた。現在は小野路保育園になり、前面の田んぼは宅地に、後ろの山は今も残っている。



小島政孝 ● 町田市小野路町生まれ。小島資料館館長・町田市観光コンベンション協会会長



2006年に閉館した『まちえい』と2000年頃に閉館した『町田ロマン会館』

リビングまちださがみ編集長  
増渕直子さん  
町田の映画館

以前は映画館が沢山あった町田駅界隈。旧ローズとグリーンの『まちえい』(原町田6)、元は日活の『町田ロマン会館』(原町田4)、そして『まちだ東急ル・シネマ』(原町田6)。シネコンの登場でこれらの映画館は全て閉館に追い込まれた。

増渕直子 ● 町田市在住、まちださがみ編集一筋20年。好きな映画は『プリティ・ウーマン』、好きな俳優はブラッド・ピットと竹内涼真



深澤勝 ● 町田市図師町生まれ。町田商工会議所第5代会頭・FC町田ゼルビア後援会会長

町田商工会議所 会頭 深澤勝さん  
岡直三郎商店と『23万人の個展』



深澤勝 ● 町田市図師町生まれ。町田商工会議所第5代会頭・FC町田ゼルビア後援会会長

PLACE OF MEMORY



写真提供 農村伝道神学校・タカオカ邦彦・渋谷雅男・岡直三郎商店・大谷航 JPN-WORLD.COM・清水沙 http://www.shimizumigiwa.com/

PLACE OF MEMORIES

昔ながらの  
気持ちいい  
お風呂、ありますよ

**金森湯**

昭和50年創業、昔ながらのスタイルを守り抜くお風呂屋さん。たっぷりの麦飯石を使った柔らかいお湯と、日曜日の健康薬用風呂、ご夫妻の温かい人柄も人気だ。

〒町田市金森3-22-21 ☎042-796-5926  
①16:00~23:00 ②1、10、20日(日曜、祝日の場合は翌日休)



浴槽は深湯、座湯、水枕湯、気泡湯に分かれている

「煎りたて、挽きたて、淹れたて」に勝るコーヒーはないと語る安井芳夫さん

蝶ネクタイがトレードマーク

**珈琲舎 ロッセ**



ほろろブレンド 400円

原町田駅と新原町田駅を繋ぐ『かけ足通り』の往来が激しかった昭和45年から続く店。店内で焙煎した生豆で淹れる珈琲に、40年以上通い詰める常連さんも。

〒町田市原町田4-3-6 ☎042-722-3554  
①9:30~19:30 ③水休

03

ゆったりとした  
時間が流れる  
マチダレトロ

市川豆腐店

仲見世が出来る前の昭和27年に創業したお豆腐屋さん。添加物を一切使わずに手作りする木綿豆腐を求め、家からお鍋持参で買いに来る常連さんも沢山。

早朝からその日に売る分だけを作る木綿豆腐。冬限定のおから煮もイチオシ

〒町田市原町田4-5-18 町田仲見世内  
☎042-728-0526  
①11:00~18:30 ②水・日休

昔ながらの大豆の味 1丁170円



コクのあるデミグラスソースが美味!

ハンバーグ、エビフライ、チキングラタンがセットになったトリオ 1,150円

ガリルママ

戦後、淵野辺に出来た進駐軍向けの洋食屋さん。昭和32年に原町田に移転、今でもレトロな雰囲気の中で頂く王道の洋食メニューが人気。

〒町田市原町田6-11-7 ☎042-722-3307  
①11:00~21:30(LO21:15) ③水休



河原本店

明治20年代創業、数えきれない程の総商品数を扱う乾物専門店。中でも昆布の品揃えには定評があり、4代目店主が北海道に仕入に出向くほど。シルクロードの中継地として栄えた頃から乾物屋さんには町田のスタンダード。

〒町田市原町田4-6-8 ☎042-722-2066  
①10:00~19:00 ②無休



豆類だけでも実に豊富な品揃え。お好みの種類を好きにだけ

漁名屋精肉店

昭和30年代から町田街道沿いで営業していた焼鳥屋さん。昭和44年に木曾団地名店会に移転、精肉と豊富で良心価格の惣菜で、団地の主婦の強いミカタ。

〒町田市本町田2507-7(木曾団地名店会) ☎042-791-2924  
①11:30~19:30 ②月休



おいしい!



ハムカツ40円、自家製コロッケ50円、自家製メンチ65円。お値段も昭和価格♥

PLACE OF MEMORY



02 ずっと大切にしたい 懐かしい場所

Ask to Machida lovers

開発が進み、町がどんどん新しくなっても、町田で長い歴史を刻んできた老舗や、幼い頃の思い出が詰まった懐かしい風景は、ずっと大切にしたい場所。「二六の市」が立ち、シルクロードの中継地となったエリアに軒を連ねる老舗も、当時の姿を残している店は少なくなっている。



造形美術家 三橋 国民さん 中野屋・久美堂

戦後、現社長の母・久子さんが始めた貸本屋が起源の久美堂。一方、昭和8年に三橋氏の自宅だった宝永堂(現・ブックオフ)の隣に引っ越してきた中野屋。大福が2個で1銭。開店の日、1時間前から並んだ第一号のお客は13歳の三橋少年だった。

三橋国民さん・日展参与・光風会名誉会員。内閣総理大臣賞ほか受賞多数。2014年に町田市名誉市民、東京都名誉市民となる



小説家 道尾 秀介さん ピザハウス ポポロ

昭和53年創業、町田のピザ専門店の草分け的存在。大学時代にバイトをしていた道尾氏のお気に入り納豆ピザとボリュームなイタリアンサラダ。アンティークが配されたレトロな雰囲気と、濃厚なチーズのピザが人気のお店。

道尾秀介さん・小説家・推理作家。代表作に『向日葵の咲かない夏』『シャドウ』『カラスの親指』など。『月と蟹』は直木賞受賞



北太樹さん すし処 半田

子どもの頃から家族でよく足を運び、今でも町田に帰ってくると決まって訪れるお寿司屋さん。中をち、イカ、キュウリ、大葉、ガリを巻いた『半田巻』が好きで、よく食べていた。

北太樹さん・原小学校(2002年に本町田小学校に統合)、町田第三中学校卒業。山響部屋所属



FC町田ゼルビア 土岐田 洸平選手 町田市立 三輪けやき公園

小さい頃から近所の友だちと缶蹴りをしたり、サッカーチームCYDの仲間と暗くなるまで練習したり。好きだった女の子もよく遊んでいた懐かしい場所なのだろう。

土岐田洸平さん・三輪小学校、鶴川第二中学校、町田高校卒業。2015シーズンからFC町田ゼルビアに所属



絵本作家 新井 洋行さん ぐりーんハウス

駄菓子やおもちゃ、ゲームが所狭しと並ぶ子どものパラダイス。現在の店舗は、当時通った少年が閉店した初代店主の跡を受け継ぎ、場所も新たに再開させたもの。

新井洋行さん・3歳から町田市在住。小川高校、東京造形大学卒業。『れいぞうこ』『ひきだし』などシンプルで可愛い絵本が多数



漫画家 みつはし ちかこさん 肉のヨコヤマ

玉川学園に在住していた頃のお気に入り。塩・胡椒してニンニク片を張り付け鉄板で一気に焼き上げたサーロインを、大根おろし醤油で食するのが大好きだったという。

みつはしちかこさん・代表作は『小さな恋のものがたり』『ハーイあっこです』。玉川学園に約40年居住、玉ちゃんバスや町田市社会福祉協議会にもイラスト提供している



PLACE OF MEMORY

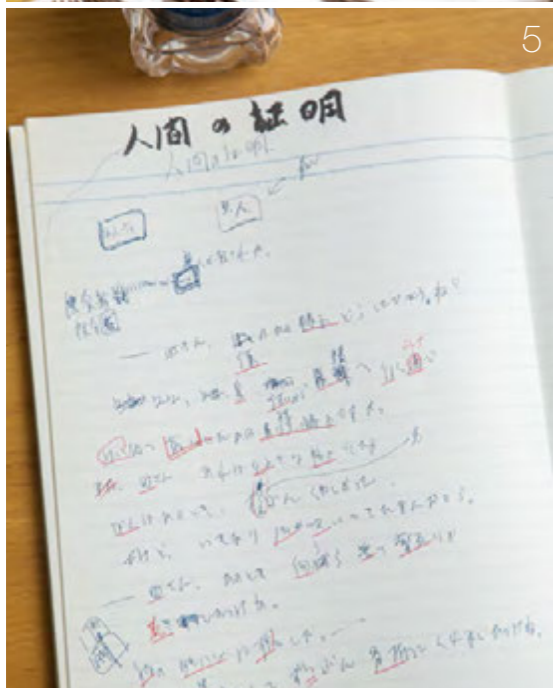


・菓舗 中野屋 〒町田市原町田4-4-7 ☎042-722-8484 ・久美堂(本店) 〒町田市原町田6-11-10 ☎042-725-1330代  
・ピザハウス ポポロ 〒町田市中町4-22-11 ☎042-726-4910 ・肉のヨコヤマ 〒町田市玉川学園7-5 ☎042-727-2729  
・ぐりーんハウス 〒町田市山崎町2200 山崎団地3-17-101 ☎042-792-0194 ・町田市立三輪けやき公園 〒町田市三輪山1-16-1  
写真提供 株式会社 久美堂

1. 仕事場での執筆風景 2. 写真と俳句を組み合わせた『写真俳句』の句集やハウツー本の著書も。散歩中に撮影することも多いという  
 3. 森村作品の代表作。左から『悪魔の飽食』『人間の証明』『高層の死角』 4. 1977年9月、新宿の紀伊国屋書店で行われた『野性の証明』サイン会 5. 『人間の証明』執筆ノート。『母さん、僕のあの帽子どうしたんでしょうね』という西條八十の詩は映画のキャッチフレーズになった



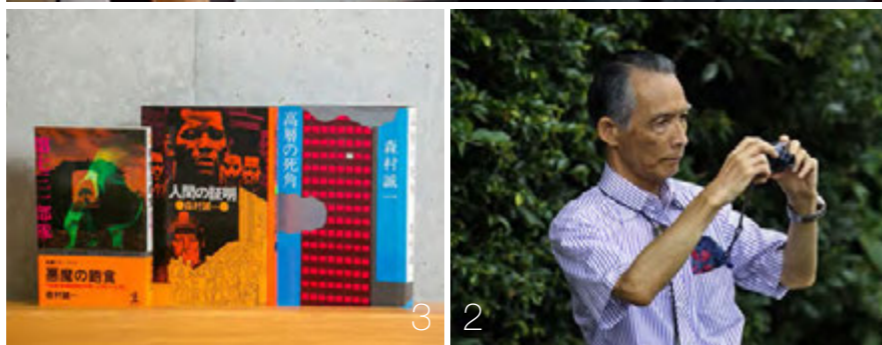
4



5



1



3

2

# 森村

特集 2

# 誠

## 可能性を追い求める 永遠の狩人

『人間の証明』の大ヒットで知られる作家・森村誠一。

社会と人間の関係性を見据える鋭い視点で、これまで数多くの作品を世に送り出してきた。そのジャンルは推理小説や時代小説、ノンフィクションと多岐に亘り、写真俳句にも精力的だ。作家として半世紀を超え執筆意欲は止ることなく、今でも彼は途上にあり続ける。



森村 誠一 1933年埼玉県生まれ。青山学院大学卒業後、9年余のホテルマン生活を経て作家活動に入る。『高層の死角』で第15回江戸川乱歩賞、『腐蝕の構造』で第26回日本推理作家協会賞、『人間の証明』で第3回角川小説賞を受賞。2003年には第7回日本ミステリー文学大賞を受賞、社会派推理小説の世界で不動の地位を築く。2011年には『悪道』で第45回吉川英治文学賞を受賞。近著に『南十字星の誓い』、『祈りの証明 3.11の奇跡』など。

読書好きの父をもち、沢山の本や雑誌に囲まれて育った森村誠一。無類の読書少年で、「少年倶楽部」や高垣暉、海野十三、大佛次郎などを読み漁り小説の世界に夢中になるが、太平洋戦争最後の空襲で自宅も宝物だった本も全て失った。焦土と化した我が家の跡に立ち12歳の少年は玉音放送を聞いていた。

戦後も様々なジャンルの本を耽読し、高校時代には元軍医の伯父に偽の診断書を書いてもらい、長期休学して通った町の図書館で『世界文学全集』の読破を試みたという。

作家を目指したのは大学卒業後、ホテルマンの頃だった。職場の斜向かいに文藝春秋の社屋ができ、森村が勤めるホテルを常宿に執筆していた梶山季之や笹沢左保などの人気作家たちに刺激を受けた。名もない労働力の一端に過ぎない虚しさを感じる中で、彼らの生原稿に触れ、作家への夢は大きく膨らんでいった。

作家デビューは1965年。雪代敬太郎というペンネームで書いたエッセイが評判となり、それを再構成した『サラリーマン悪徳セミナー』が最初の著作となった。1969年、知人の勧めで書いたミステリー小説『高層の死角』が江戸川乱歩賞を受賞。その後、次々とヒット作を生み出していく。そして、1976年に発表された『人間の証明』で日本を代表する推理小説作家としてその地位を確立した。770万部の大ベストセラーは映画化され、『青春の証明』『野性の証明』へと続き、1981年に発表した『悪魔の飽食』では旧日本軍731部隊の実態を明らかにし社会問題にもなった。

厚木から町田に仕事場を移したのは1991年。以来、30年近く町田の地から多くの作品を世に送り出した。閑静で文化的な街もお気に入り、近くには行きつけの珈琲店もある。文学館の創設にあたり、2002年から翌年にかけて開設準備懇談会委員長として尽力、その後も企画展や写真俳句コンテストの開催に関わり、資料を寄贈するなど町田愛も滲ませる。

2015年に作家生活50周年を迎えた森村氏。50周年記念作品として圧倒的なスケールの大河ロマン『運命の花びら』は通算398冊目で、著作は現在400冊を超えた。ゴールのない作家という人生の中で、原稿用紙にペンを走らせる日々は今も続いている。

撮影 タカオカ邦彦 協力 町田市民文学館ことばらんど

1. Nコンで2000を超える参加校の頂点に立った鶴川二中。2時間程の練習を週に5日行う  
 2. 鶴川二中の名が刻まれている内閣総理大臣賞杯 3. 出場した2007年から連続して東京都代表に選ばれているTBS子ども音楽コンクール。2012年には日本一に輝いた 4. 合唱指導の第一人者である眞鍋淳一先生。子どもが輝く瞬間を見逃さない 5. 武蔵野音楽大学の同窓だった眞鍋夫妻。二人とも文部科学大臣優秀教員の表彰歴があり、30年以上前から市内に在住している



# 鶴川から全国に響く 美しいハーモニー

10月9日、渋谷のNHKホールで行われたNHK全国学校音楽コンクール、通称Nコンの全国大会で町田市立鶴川第二中学校が2年振り、3度目の日本一に輝いた。指導する眞鍋淳一先生は、町田市立堺中学校でも合唱部を日本一に導いた合唱指導のエキスパートだ。そして、前日の10月8日、その同じステージで歌う小学校の中には鶴川第二小学校の姿があった。

## 特集 3

### 町田市立鶴川第二中学校 音楽教諭

# 眞鍋淳一

眞鍋 淳一 武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒。全国で合唱指導、授業指導、研究会の講師、助言を行っている。著書に『授業のための合唱指導虎の巻』(音楽之友社)  
 町田市立鶴川第二中学校 NHK全国学校音楽コンクール全国大会金賞、全日本合唱コンクール全国大会金賞、TBS子ども音楽コンクール全国大会最優秀賞ほか受賞歴多数。合唱曲のレコーディングやコンサート出演を依頼されることも多い

昼休みになると歌が好きな生徒が自然と集まって合唱を楽しむ「昼休み合唱団」が存在する鶴川二中。多いときは100人を超える生徒で音楽室が溢れ返る。そんな鶴川二中に眞鍋教諭が赴任してきたのは平成17年のことだった。

早速合唱部を作り、運動部の有志も募ってコンクールに出場。初年度でNコンの東京都大会で銅賞に輝くと、2年後には東京都合唱コンクールで金、その翌年には全国大会で銅と、鶴川二中は瞬く間に全国大会の常連校となっていた。

一方、同じ学区の鶴川二小も今年度のNコンで関東甲信越ブロックの金賞に輝き、全国大会に駒を進めた強豪校だ。実は、ここで指導を行うのは眞鍋氏の妻のなな子先生。以前勤めていた学校でも多くの受賞歴があるが、子どもたちが中学に進んだ後、合唱が続けられない状況を常々憂いていた。身体や声作りから始め、技術が全国レベルに達した生徒でさえ、合唱を続ける場がないのだ。どうしようもない不幸な現状に心を痛めていた。

そんな想いを抱えていた平成19年の春、なな子先生の赴任先が鶴川二小になった。夫婦で教諭の場合、赴任先が同学区になることは

奇跡に近い。以来、彼女の指導を受けた生徒は鶴川二中に入学すると7割近くが合唱部に入部する。合同演奏会を行ったり、二小の指導に淳一先生があたるなど、相互の取り組みも始まった。そんな状況も手伝つか、鶴川二中の合唱部はこの4年間で3度の日本一に輝いている。

全国大会という独特の空気を経験した生徒たちは本番に強い。合唱が自分の居場所となり、自信となつて他の場所や将来に繋がっていくという。「歌には素晴らしい力がある。歌声が響く学校は荒れていない。市民ホールの町田市連合音楽会でも、いい演奏をすると聴く生徒の態度も変わってくる。」事実、鶴川二中は運動部の成績も学校の雰囲気もとてもいい。「私立よりも鶴二に」という生徒も多く、空き教室は一つもない状況だ。

普段は音楽教諭として若い音楽教諭の指導にも熱心だ。夢は教える子が音楽教師になって日本中で合唱の指導をしてほしいこと。スタッフとして練習を手伝ってくれる卒業生も既に何人かいるという。

保護者や大勢の人たちに支えられ、更に輝きを増す合唱部。鶴川には今日も美しい歌声が響いている。

# 街を

# 歩く

鶴見川

8  
eighth  
step



**白** 洲次郎や畦地梅太郎ほか幾人もの著名人が終の棲家を選んだ鶴見川。鶴見川水系の八村が明治期に合併した鶴見川のほぼ全域が『鶴見川』と呼ばれ、昭和43年に町田市の町名になりました。現在は市の東側玄関口として、駅周辺の開発・整備や新興住宅地の建設などが進んでいます。古き良き時代の香りがする団地の商店街や茅葺屋根の古民家など、懐かしい風景がいつぱいの駅の北側をご紹介します。



## C 能谷山 妙行寺

日蓮宗身延山久遠寺の末寺。永和元年(1375)創建で第8世開山の寺院。山門は二度にわたる火災を唯一免れている。



## A 石川邸 ※見学要予約

明治初期の入母屋造の古民家。茅葺屋根と土間や縁側は補修され、懐かしい風情を体験できる。スタジオ利用が可能。



## B 能ヶ谷神社

正保年間の創建。大正期に打越の住吉神社、宮下の天照大神社などを合祀し改称。ご神木は幹が力強いやぶ椿。



## F 能ヶ谷きつねくぼ緑地

昭和40年代に工事中断・放棄されたマンションの廃墟跡・俗称オバケマンションの跡地。特撮もののロケが頻繁に行われた。



## G 旧白洲邸 武相荘

白洲次郎と妻・正子の邸宅で母屋や納屋、所蔵品が公開されている。レストランでは白洲家伝統のカレーも。



**鶴川団地センター商店街**  
子どもの遊び場を団地で囲んだレトロな雰囲気の中、個性豊かな店舗が元気に営業する。焼酎ファンが足繁く通う『酒舗まさるや』、『パティスリー ル・ソレイユ』など町田私のお気に入りのお店大賞受賞店も。

**鶴川団地セントラル商店街**  
昭和44年秋「セントラルストア」として誕生、団地の住民を中心に地域の人々に親しまれてきた。閉店する店舗が増える中で、根強い人気店やお洒落なカフェなども登場している。



## H あとりえ・う

国際版画美術館創設に尽力、町田市名誉市民の版画家・畦地梅太郎の工房で作品や使用道具が展示されている。



## I 酒舗まさるや

本格焼酎と地酒に特化した店づくりで、遠方からもファンが訪れる酒店。蔵元と日本酒を楽しむ「酒人好の会」も大人気。



## J アラスハートCAFE劇場

NEW OPENのカフェ。商店街の焼鳥なら持ち込みOK。大正琴のライブ、歌やダンスなどのステージも開催される。



## K 蕎麦處 藤田

昭和51年にOPEN。白洲正子も通ったお蕎麦屋さん。つなぎを使わない蕎麦粉100%の「生粉もり」が評判。



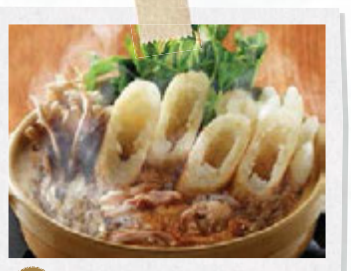
## L 夜もすげら骨董店

骨董品屋さんカフェを併設してリニューアルOPEN。レトロな空間で焼カレーやミルクセーキを楽しめる。



## M 金井の獅子舞雨乞いの地

昭和38年に町田市無形文化財第一号に指定された金井の獅子舞。その発祥の地とされる場所。



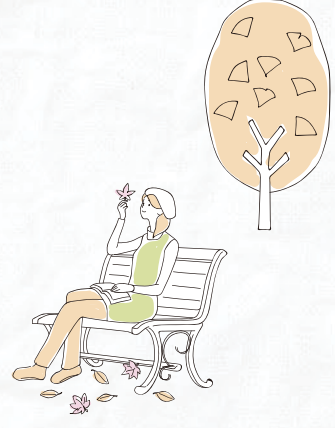
## E なまはげや

きりたんぼ、じゅんさい、いぶりがっこほか秋田の美味しいものがズラリ。勿論秋田のお酒たちも。今なら温かいお鍋がおススメ。



## D 可喜庵 ※見学要予約

鈴木工務店初代の隠居小屋で1863年に建立。現在はサロン・ギャラリーとして多彩な催事が開催されている。



A. 石川邸 能ヶ谷7-23-11 [https://spacemarket.com/spaces/minnno\\_kominka](https://spacemarket.com/spaces/minnno_kominka) B. 能ヶ谷神社 能ヶ谷6-20-1 C. 妙行寺 能ヶ谷4-20-16 042-735-3327 D. 可喜庵 能ヶ谷3-6-22 042-735-5771 E. なまはげや 能ヶ谷1-3-3-4F 042-735-8204 F. 能ヶ谷きつねくぼ緑地 能ヶ谷7-6付近 G. 旧白洲邸 武相荘 能ヶ谷7-3-2 042-735-5732 H. あとりえ・う 鶴川11-13-12 042-734-8586 I. 酒舗まさるや 鶴川6-7-2-102 042-735-5141 J. アラスハートCAFE劇場 鶴川6-7-4-110 042-813-9373 K. 蕎麦處 藤田 鶴川12-14-24 042-735-2563 L. 夜もすげら骨董店 鶴川14-15 042-734-0234(このzakkaらぶりー) M. 金井の獅子舞雨乞いの地 大蔵町201





# 商店街と共生する 町内会の課題と展望

## 原町田四丁目第一町内会



会長の三橋 良二さん

The Machibito — Chikiri ni Ikinu



町内会・自治会の存在が大きくクローズアップされている。それは、阪神・淡路大震災や東日本大震災で、町内会・自治会が重要な役割を果たした事例が数多く報告されているからだ。

町田市にある町内会・自治会の総数は現在310で加入世帯率は平均約54%だ。そんな中、加入率90%という町内会がある。

は商店主でなければ知らないことが多い。

### 商

店会長を兼務する副会長の高橋さんは、老舗酒屋の3代目だ。現在は貸しビル業に転換し、同エリアの高層マンションに住居を移した。マンション住民の参加が少ないことを肌で感じているだけに、商店会で子ども会や母親たちとの接点が増えてきたことをなんとか町内会へ繋げられたら、と期待を持っている。

「数年間まで頭を悩ませていた商店街の落書きも、パトロールの強化や防犯カメラの設置、あとシャッターの絵が完成したお陰で近年は殆ど無くなりました。ただ、場所柄、風紀や騒音の問題も気がかりですね。マンションには小さいお子さんも沢山住んでいますから。」という語る会長の三橋良二さんは明治15年に創業した老舗お茶道具店の4代目だ。

一番の課題はマンションの住民の参加が少ないということだ。

前会長の河原さんは「私たちは昼間はいるけれど、夜から朝までの様子は殆ど分かりません。そこに暮らす人たちが問題意識を持って参加してくれないと、町内会やこの街は良くならないと思うんです。」



副会長の高橋 宏明さん



A. 店舗とマンションが同居する原町田四丁目の商店街



B. 落書き対策でシャッターに絵を描いた町内会館



C. 毎年、秋の日の近くの週末は法被を着た人々で町は更に活気づく

加入に関するお問い合わせ 町田市町内会・自治会連合会 042-722-4262



町田の  
子ども食堂  
その現状と「これから」

経済的な理由による栄養不足や孤食のフォローなどを目的として始まった『子ども食堂』が全国的に広がっている。町田市内でも、この10月にオープンしたばかりの『ぶくちゃん食堂』（野津田）を含め、5ヶ所で運営されている。

**町** 田市の子ども食堂第1号として2016年6月にオープンした『ここに清風食堂』（金井）。高齢者福祉施設として50年以上の実績を持つ清風園がこの取り組みを始めたのは、民生委員の「困っている子どもたちにも門を開いてみては？」という打診がきっかけだった。その言葉に突き動かされた吉田施設長は僅か半年で開催にこぎつけた。開催は月2回、施

設職員や地域のボランティア、提携している玉川大学のゼミの学生も参加する。グループホームの高齢者と一緒に食べる部屋と子どもだけで食べる部屋の2つがあり、イベントも開催しながら「子どもが主役」を掲げた食堂となっている。月1回、地域交流スペースで開催される『みんなでごはん』は、複数の団体に所属する有志が集まって自発的に設立、ボランティアが様々な得意分野を発揮することで運営されている。「異世代間の交流で子どもの社会性を育てる」という理念のもと、子どもたちの居場所として定着しつつある。

2017年6月にオープンした『コミュニティキッチン・山崎』は「元気な高齢者が地域の子どもの育てよう」という介護予防を切口にスタートした。社会福祉法人悠々会の陶山理事長は「共生社会と言われる現在、困りごとを抱えた人は地域で分け隔てなく支援したい」と語る。開催はまだ少ないが、効果も少しずつ実感できているという。

一方、貧困や孤食という側面でも受けながら『コミュニティ食堂』というスタイルで運営される『コミュニティキッチン・鶴川』。食事はバイキング方式で、理由に関わらず困った子どもたちの居場所になれば、とNPO法人コミュニティフレンドがオープンさせた。

いずれも学習支援や遊びと組み合わせ、子どもの食事は無料もしくは100円。中には大人が参加できる食堂もあり、開催時間は2〜5時間と様々だ。課題は運営サイドの人員確保や経費の捻出で、余った食品を持ち寄る『フードドライブ』や地域の協力で辛うじて運営しているという。運営の方向性や開催の告知など見直すべき問題は山積しており、試行錯誤を重ねている状況だ。ただ、「地域で子どもを育てよう」という社会貢献活動であることは間違いない。エリアの学校や社会福祉協議会と連携しながら、子どもたちに豊かな食事と安心して過ごせる時間を提供できる場として、無理のない継続的な運営が期待される。

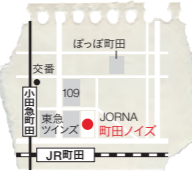


AB. 小川の「みんなでごはん」。この日のメニューは回鍋肉や小松菜の中華風炒め、キャベツとワカメの酢の物など、野菜もたっぷり。対応人数の限界に達している盛況を笑顔で支えるボランティアスタッフの皆さん CD. 「コミュニティキッチン・山崎」では悠々園のスタッフが調理している。大人の利用も可能だ E. 「コミュニティキッチン・鶴川」では日中営業しているフェの料理も取り入れながら費用の捻出を抑えている FG. 「ここに清風食堂」では6種類のメニューを繰り返して提供する。飯盒炊爨やお月見、ハロウィンなどのイベントも行う

1980年創業。コーヒーも音楽も楽しめる  
町田ノイズ

薄暗い店内には女子高生からジャズマニアまで、カオスな雰囲気漂う喫茶店。創業当時のレシピで作る牛肉100%のミートソースは正に“お肉のソース”。2本のソーセージもノイズ流。

町田市原町田6-6-14 JORNA 4F 042-725-5797  
10:30~20:30(Lunch Time 11:00~16:00)  
ジョルナの休みに準ずる  
<https://jazznoise.jimdo.com/>

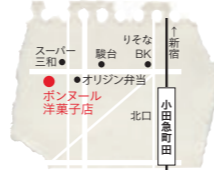


ポロニアソース 756yen

昭和の王道スイーツが今も並ぶ  
ボンヌール洋菓子店

人気No.1は昔ながらのモンブラン。ふわっと焼き上げたキメの細かいスポンジにカスタードクリームと生クリーム。栗のペーストたっぷりの、洋菓子の王様。

町田市森野2-30-13 042-722-3806  
9:00~21:00  
不定休(木曜日)  
<http://vita.tc/shops/211>



モンブラン 370yen



パン各種 86yen~

昭和の香り漂うパン屋さん  
メルシー

ふわっとした焼き上がりのお財布にも優しいパンが沢山。あんぱんや焼きそばパン、玉子サンドなど、昔から愛され続けてきたシンプルで美味しいパンに創業当時から通い続けるファンも大勢。

町田市木曽東4-17-22 042-792-2548  
8:00~19:00  
日休(土・月が祝日の際は連休)  
<http://vita.tc/shops/212>



ラーメン 700yen

仲見世商店街で暖簾を守り続ける  
七面

創業35年、夫婦二人で切り盛りするカウンターだけのラーメン屋さん。旨味が凝縮されたスープに自家製麺のラーメンは心温まる昔ながらの味わい。幅広い世代の人々に愛され続ける稀少な店。

町田市原町田4-5-19 町田仲見世商店街内  
042-722-5288  
日・木・金土11:30~19:30、火11:30~16:00  
水休 <http://vita.tc/shops/307>



プリンアラモード 648yen

昭和42年創業の純喫茶“黒鳥”がルーツ  
パーラーさいとう

商店街の繁栄に尽力した齋藤浜吉が始めた齋藤肉店が、その後フードセンターやトンカツのこにことんちゃん、純喫茶“黒鳥”を展開。後の駅再開発で、黒鳥が小田急マルシェ内に移転、改名して現在に至る。100種超の甘味や、ネドリップのコーヒー、自慢のハンバーグを求め、50年来のファンも訪れる。

町田市能ヶ谷1-6-11 小田急マルシェ鶴川1-2F  
042-735-7818  
10:00~22:00(L.O. 21:30) 無休  
<https://www.hotpepper.jp/strJ000161929/>



懐かし  
むかし

愛しのレトログルメ  
Delicious and nostalgic gourmet

美味しさと一緒に懐かしい思い出までもが甦る  
心癒される、レトログルメを召し上がれ。



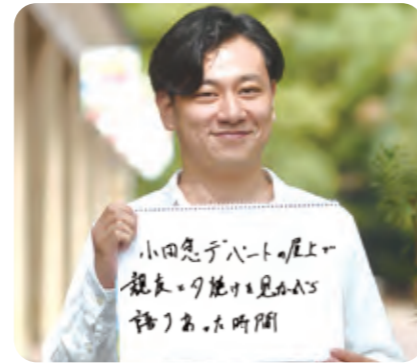
あなたの『町田の懐かしい思い出』を教えてください



絵本作家 中垣 ゆたかさん



齋藤 小織さん



『四月の永い夢』中川 龍太郎監督



メルシー 中前 英司さん



NOISE ひよりさん



三橋 良二さん



珈琲舎ロッセ 安井 一江さん・芳夫さん



金森湯 霜鳥 栄作さん・恵子さん



名取 玲子さん



東京ガスライブバル 澤井 義晴さん



三嶋 沙織さん



新星舎印刷所 名取 頭一さん



まみや町田店 間宮 美香さん



陶山 慎治さん



市川豆腐店 石井 道子さん・国彦さん



パーラーさいとう 齋藤 泰子さん・喜三郎さん



夜もすがら骨董店 加藤 恵里子さん・翔太さん



すし処 半田 半田 信子さん・敏雄さん



蔵家 SAKELABO 浅沼 芳征さん

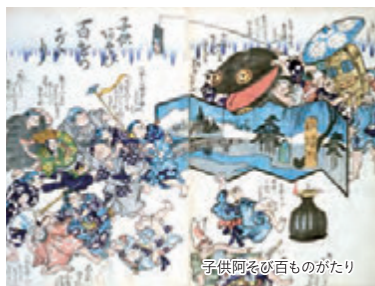


佐伯 友也さん



町田市市民活動応援キャラクター  
おうえんマン

## 『滑稽』探索 田河水泡の研究とコレクション



子供阿呆ひ百ものがたり

**期間** 11月18日(土)～2018年1月21日(日)  
**場所** 町田市立博物館  
漫画『のらくろ』の作者で、晩年を町田で過ごした田河水泡。『滑稽』研究家でもあった田河が収集し、後に博物館に寄贈した幕末から昭和にかけての浮世絵や草双紙、風刺画などの数多くの滑稽画コレクションを紹介すると共に、彼の歩みやその研究をたどる。作品の途中入替有。月曜休館(祝日は開館)翌日休館、年末年始休館)入館料300円(中学生以下無料、障がい者半額)  
☎042-726-1531

## 鶴川ショートムービー コンテスト入選作品上映会



**期間** 11月23日(休祝)～27日(月)  
**場所** 和光大学ポブリホール鶴川1階カフェ  
観るだけでなく、作る楽しさを体感できる映画祭。2015年から始まり、第3回を迎えた今回は73作品が集まった。上映する入選作品18本は、いずれも他では見られない個性豊かな作品ばかり。来場者の一票も観客賞に反映される。17時～20時。12月3日(日)の授賞式では、グランプリをはじめとする各賞の発表と上映が行われる。どちらも入場無料。詳細は、「鶴川ショートムービーコンテスト」で検索を。

## 町田天満宮 がらくた骨董市



**期間** 毎月1日(2018年1月は10日(水)開催)  
**場所** 町田天満宮 境内  
100を超える骨董店が軒を連ねる人気の骨董市。陶磁器や漆器、雑貨、古書・古本、古道具、古銭、金物などの生活用品、アクセサリ、昭和レトロなおもちゃのほか、こんなもの?というガラクタまで並ぶ。早朝から掘り出し物を探す常連や和物アンティークマニアの外国人、リメイク着物狙いの女性など、毎月、大勢の人で賑わう。雨天決行 7時～15時 入場無料  
☎090-3314-1994(古久根)

## きらり×瑞宝太鼓 かがやく笑顔つながって



**期間** 12月2日(土)  
**場所** 町田市民ホール  
ひなた村を中心にそれぞれの感性を輝かせようと活動している和太鼓仲間「きらり」。天井の音色と評され、町田に初登場する長崎の「瑞宝太鼓」を迎えてのスペシャルコンサートは夢への挑戦。障がいも個性としてそれぞれの想いを乗せ、共に一つの演目に向かう笑顔いっぱい姿を是非。15時開演大人2,000円、学生・障がい者1,000円、幼児無料(席が必要な場合は1,000円)  
☎090-3206-0283(山本)

## 市民協働フェスティバル 「まちカフェ!」



**期間** 12月3日(日)  
**場所** 町田市役所1～3階  
町田市内で活動するNPO法人や市民活動団体、町内会・自治会などが一堂に会し、活動紹介やワークショップを通じて交流を深めるまちカフェ!は今年で11回目。「いいことさがし〜魅力と個性をシェアするまちだ」をテーマに楽しいイベントが盛りだくさん。「よろず相談所」では、市民活動や地域に関する相談などを受け付ける。10時～16時、入場無料  
☎市民協働推進課 042-724-4362

## 『四月の永い夢』 2018年春、劇場公開



Tokyo New Cinema(町田市中町)制作、第39回モスクワ国際映画祭にてW受賞を果たした映画『四月の永い夢』。滝本初海27歳のもとに、3年前の春に亡くなった恋人からの手紙が届く。胸に抱えた「秘密」、青年からの告白、教え子との再会。一枚の手紙をきっかけに日常が動き出す。主演は『かくや姫の物語』の朝倉あき。監督は最年少で東京国際映画祭2年連続入選を果たした中川龍太郎。モスクワで認められた町田発の話題作は2018年春、劇場公開。  
☎Tokyo New Cinema 042-720-1024

# まちびと写真館

其の八  
国鉄町田駅前せせらぎ広場  
昭和56年頃



1936年、森野に生まれる。  
中学時代から写真を始め、日本写真学園卒業後、1999年まで森野で写真スタジオ“ギャラン・フォト”を経営。新日本写真協会NJP文化功労賞ほか多くの受賞歴を持つ。新日本写真協会、写団まちだ代表。

撮影した人 渋谷雅男氏



## 人々に潤いを与えた 懐かしい場所

1980年4月。町田の玄関口が新しくなつた。現・バスターミナルにあった国鉄の原町田駅が移転し、町田駅と改称。小田急線の新原町田駅も町田駅となり、9月にはマルイが、10月には東急百貨店町田店がオープン、商都町田は更に勢いを増していった。

噴水のある「せせらぎ広場」が完成したのはその翌年の3月のこと。木々が木陰を作り、静かに水が流れる噴水では子どもたちが水と戯れ、買い物客が足を休めた。近くには懐かしい都南デパートや文具のなかじまがあった。

2002年2月、都市計画道路3・4・11号線の着工に伴い、このせせらぎ広場は取り壊されることになる。そして11月8日、町田街道からJR町田駅までが開通し、交通の利便性と引き換えに、市民の憩いの場は記憶の中の風景となった。

それから5年後、東急百貨店は27年の営業に幕を閉じ、町田東急ツインズとしてリニューアルした。地上5階のクリスタルブリッジは当時と同じ姿のまま、移りゆく様子を静かに見下ろしている。

ご応募は…

✉ 封書で

右下のアンケート用紙を切り取ってお送りください

〒194-0021  
東京都町田市中町1-17-11-3F  
株式会社 VisionDesign  
まちびと編集部

📠 FAXで

右下のアンケート用紙をFAXでお送りください

FAX  
042-711-7804

@ e-mailで

タイトルに「まちびと」とつけ、本文にアンケートの答えや氏名を記載してお送りください

machibito@vision-design.biz

PRESENT & QUESTIONNAIRE

まちびと

プレゼント & アンケート

「まちびと」秋冬号をお読みいただき、ありがとうございました。

これからも更に充実した「まちびと」を作るために、  
沢山のご感想・ご意見をお待ちしています。

プレゼントを希望される方は、アンケートにご回答いただき、奮ってご応募ください。

応募締切 = 2018年1月20日必着



PRESENT A

1組  
2名様

スロヴァキア室内オーケストラ & 錦織健コンサート

【日時】2018年2月10日(土) 14:30開演  
【会場】町田市民ホール(小田急町田駅より徒歩7分)

クラシック珠玉の名曲を多数お届けします。予定曲：ヴィヴァルディ：四季/ブッチェーニ：誰も寝てはならぬ/モンティ：チャルダッシュ他。芸術監督・指揮：ヴァイオリン：エヴァルト・ダネル全席指定5,000円。



PRESENT B

3名様

映画『四月の永い夢』オリジナルデザインてぬぐい

Tokyo New Cinema(町田市中町1)制作、モスクワ国際映画祭でW受賞を果たした話題作『四月の永い夢』。劇中に登場する代官山「かまわぬ」の映画オリジナルてぬぐいを3名様にプレゼント。

PRESENT C

1名様



森村誠一 サイン入り『運命の花びら』(上・下)

2015年にデビュー50年を迎えた森村誠一氏が作家生活の集大成として書き上げた重層的恋愛小説。300年の時を超えて結実した運命の愛を描いた大河ロマン。上・下巻2冊セット。

PRESENT D

各5名様

ブリヂストン美術館  
カレンダー2018  
Lサイズ・Sサイズ  
静物画



小山ヶ丘にできた石橋財団アトリサーチセンターでは今春からワークショップや美術講座などのプログラムを展開中。石橋財団コレクションより、表現豊かな12作品を選んだカレンダー「静物画」のLかSを各5名様に。

Q1 「まちびと」秋冬号をご覧になっていかがでしたか?  
① 良かった  
② 普通  
③ 良くなかった  
④ その他( )

Q4 今回の記事で参加や申し込み、お出かけなど、実際に行動したくなった情報はありましたか?  
① あった( ) ※Q3のリスト番号でお選びください  
② なかった

Q2 「まちびと」をどこで入手されましたか?  
① 町内会・自治会での回覧  
② 市の公共施設  
③ ( ) 駅  
④ その他( )

Q5 町田の好きなところを教えてください

Q3 おもしろかった記事を教えてください(複数回答可)  
① 特集1(マチダ・ノスタルジック)  
② 特集2(森村誠一)  
③ 特集3(眞鍋淳一)  
④ 街を歩く～鶴川～  
⑤ Theまち人 原町田四丁目第一町内会  
⑥ Theまち人 町田の子ども食堂  
⑦ マチダdeグルメ  
⑧ Machibito-Snap  
⑨ まちびと写真館  
⑩ NEWS & INFORMATION  
⑪ プレゼント&アンケート  
⑫ カイルカードのマチダ・ダマシイ  
⑬ まちびとひろば

Q6 今後、取り上げて欲しい記事や特集があれば教えてください

Q7 今号の「まちびと」へのご意見やご感想をお願いします

Q8 ご希望のプレゼント番号をお選びください  
A・B・C・D

ご住所 〒 - 都道府県 郡市区  
フリガナ  
お名前 TEL - - 年齢  
男・女 ペンネーム E-mail

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。※個人情報の管理について「まちびと」は、読者や利用者のプライバシーを尊重し、個人情報の管理に細心の注意を払い、厳重に取扱います。※アンケートの内容は、誌面に掲載する場合がございます。匿名希望の場合は、ペンネームをご記入ください。



- 編集部より** | Editor's Note
- まちびと秋冬号、いかがでしたか？町田の懐かしい場所や思い出が、読者の皆さんからも沢山届きました。その中から少しだけご紹介したいと思います。
- 引越して来た16年前はカエルのなき声にびっくりしたり、たぬき、へびにも出会いました。今はなき声もきこえなくなり、たぬき、へびにも会えなくなりました。  
(図師町 えのしさん)
  - 小田急の屋上観覧車、芹ヶ谷でのザリガニとり。昔はどんど焼きも町内の四つ角でやりました。川田という佃煮屋なんかもありましたっけ。  
(下小山田町 ビースママさん)
  - 結婚して町田に住みました。JRも単線でした。駅に改札員はいないし電車のドアは自動ではありませんでした。駅近くの映画館になぜか思い出があります。古い館でした。  
(小山町 ガレージライフカブちゃん)
  - 当時小学生だった頃、成瀬台小学校がまだなく、登下校に1時間近くかかって、第五小学校へ通っていた。遠かったが、道中おしゃべりしながら通ったのが懐かしい思い出。  
(能ヶ谷 明美さん)
  - 小田急の屋上のペットショップが好きでした。  
(中町 タモマンさん)
  - 珈琲館と松竹レトロ喫茶の謎。緑屋↓POPピルの古本屋。町高の木造校舎。都南デパート、マツヤマ、長崎屋A・B館。ジヨルナのCABINと大きなパフェ。子供の頃バルコだと思っていたPARROビル。喫茶コーヒゼリーなど。  
(鶴川 じゅんこちゃん)
  - 町田の駅前に大きい100円ショップがあって、1日中いても楽しかった。  
(相模原市 ライチさん)
  - 町田に住んで70年以上になります。一面、田んぼだらけだった所が今は面影もなくその変貌ぶりに目を見張るばかりです。子供の頃遊んだ場所が懐かしい。  
(本町田 関洋子さん)

町田の魅力をたっぷりご紹介！

次号まちびと 2018年春号は 2018年3月15日発行です

「まちびと」は、市民センターや図書館等の公共施設窓口のほか、市内の郵便局・農協の各支店・病院や美容院・スーパー等、約600箇所にて設置しています。また、町田市役所2階、市民協働推進課 おうえん広場内の「NPO・地域活動情報コーナー」では、最新号や在庫のあるバックナンバーもごさいます(市内での50部以上の設置場所も随時募集しています)。なお、町田市の公式ホームページでもPDF版と電子ブック版をご覧いただくことができます。

<http://www.city.machida.tokyo.jp/community/shimin/katsudou/machibito/>



第8回  
"heritage"を  
タイセツに!



PROFILE  
カイル カード

町田市在住 カナダバンクーバー出身  
「5時に夢中(東京MX)」、「ものまね  
グランプリ(日テレ)」の他、映画  
『永遠の0』『バンクーバーの朝日』  
などに出演。パーソナルトレーニ  
ングジム・RIZAPのCMではビ  
フォーアフターで絞上げた肉体  
美を披露した。NHK Eテレの「エ  
イエイGO!」ではスペースレン  
ジャー役で出演中。流暢な日本  
語、カナダユーモアを織り交ぜた  
トークで、俳優・モデル・MCな  
ど幅広く活躍。特技はものまね、  
オペラ、ウェイトトレーニング

最近すごく気になっているこ  
とがあります。僕は散歩が大好  
きだという事を以前書きまし  
た。散歩先で出会う自然や建  
物、風景などは何よりの楽しみ  
です。古い建物や畑、昔ながらの  
風景は見るだけで日本の計り  
知れない伝統や歴史に触れ合  
事が出来ます。しかし、その見慣  
れたものがどんどん壊されてい  
るような気がします。正直、心が  
痛みます。僕より遙か昔からそ  
れらを見慣れている方々はどう  
思っているのだろうと気になり  
ます。「なんで古いものを守らな  
いの?」「なんでこの自然を壊す  
必要があるの?」と。

ハウスに住むことができた。  
”ヘリテージ”というのは歴史・  
文化・環境・建築的に大切に、公  
に守るべきもの。建て替え  
や破壊は禁止され、逆にメンテ  
ナンスには政府からの補助があ  
り、改造やリフォームの際は許  
可が必要となります。まあ、色々  
難しいのですが、次世代に伝え  
る為に様々な対策がされていま  
す。そして、僕はヘリテージハウ  
スに住んで、昔の暮らしかや建築  
の伝統技術、歴史、素材まで自  
分の肌で感じ、言葉に出来ない  
ほど素晴らしい体験が出来まし  
た。考え方も変わりました。それ  
までは何でも新しければいいと  
思っていたし、歴史や伝統もあ  
まり気にしなかったのです。で

も、その貴重な経験で伝統や歴  
史の重み、大切さに気づき、「古  
いもの」が大好きになりました。  
そんな僕は、初めて町田に来  
た時「古い建物がいっぱいあって  
素晴らしい!」「ちゃんと歴史を  
守っているな!」と感動しまし  
た。蔵みたいな富澤商店、不思  
議な雰囲気の見世商店街。  
そして、初めて見た日本のお寺。  
成瀬の祥雲寺は今でも僕の特  
別な場所です。家の近くにもイ  
イカンジの家や畑などがあつた  
のに、最近はおちこちで新しい  
物件に。なんでだあー!!色々な

事情はあると思うし、古い建物  
を守る活動も行っているとは  
思いますが、なんか腑に落ちな  
いのです。  
皆さん、古いものをもっと守  
りましょう!僕がカナダでした  
ような体験を日本の若い方々に  
してもらえたら、と思うのです。  
歴史や伝統を自分の肌で感じ、  
その大切さに気づいたら、古い  
ものを守る協力者がもっと増え  
るはず。私たちは自分のルーツ  
を忘れてはいけません。ルーツが  
なくなったら森だって、何もなし  
砂漠になっちゃうのです。

鎌倉時代から宿場町として栄え、手つかずの自然が広がる町田市小野路町。岡田邸はそんな小野路の傾斜地にあり、北側の鎌倉古道が静かに時を刻んでいる。

散歩が好きで、自然をこよなく愛す岡田夫妻は小野路のロケーションに一目惚れして土地を購入した。

「風が抜けて、山並や竹林、鳥、空、星が楽しめ、友人が集い寛げる家。」そんな夢を抱いての家づくりだった。

市道から階段を上ると、大きな囲炉裏が迎える。ここは主人のリクエストで、囲炉裏に火をかけ来客を待ちわびる時間も楽しそうだ。引き戸の玄関を入ると、そこはリビングへ続く階段があるオープンな空間。鎌倉古道越しの借景が美しい和室が寝室になる。2階

へ上がると、四方の窓から緑が飛び込んでくる。隣の家が気にならない位置に作った四方の窓でリビングは自然の大ギヤラリーになる。東側に居た鳥が飛び立ち、北側の窓辺で羽を休めたと思ったら西側の庭の木に飛び移る。鳥たちの気ままな足跡も家の中から簡単に追いかける。

「蟬の幼虫が上ってきてふ化する時は息をのんでずっとその様子を記入してしまいました。夜にはミミズクの鳴き声が聞こえてきて、ふと見ると隣の屋根の上にシルエツトが見えるんです。」花々に珍しい蝶々が飛んできた瞬間。見たこともない野鳥に出会えた瞬間。感動は数えきれなかった。

ロケーションは申し分なかったが敷地の西側を2m以上の範囲で縦断する擁壁上の土地をどう活かすかがポイントだった。岡田さんのイメージは、ここを庭として建物と一体となった使い方ができること。

そこで考えられたのは、西側に設けた南北2つのテラスだ。使いみちが殆どないと言われた擁壁上のスペースを2つのテラスからアクセス可能にし、これらをつなぐことで回遊性を持たせている。

空中を回遊しながら庭づくりを

緑と風と太陽の恵みがふり注ぐ  
あるがままの自然を切り取った家

どんな土地でも長所と短所が混在するもの。土地の特徴を把握し、そこからイメージする。長所は磨きをかけ、短所は利点に変えていく、そんな家づくりの紹介です。



1. 表向きの素材として使うことの少ない構造用合板表しの勾配天井。表情豊かな木目や経年による色の変化も楽しい。2. 四方向全ての風景が美しい2階LDK 3. 庭と鎌倉古道の自然を眺めながら食事を楽しめる北側のテラス 4. 西側の擁壁。上のスペースはテラスからアクセスできる庭と畑にした 5. ロフトへ続く階段に座って庭を眺めるのも楽しい時間だ 6. 1階の和室からは借景の緑が美しい 7. 玄関は圧迫感を感じさせないストリップ階段のある和室とオープンな空間に 8. 夏ならビール、冬なら熱燗を楽しみたい囲炉裏スペース



株式会社 鈴木工務店  
195-0053 東京都町田市能ヶ谷3-6-22  
tel 042-735-5771 fax 042-735-3323  
www.suzuki-koumuten.co.jp

楽しむ。その庭を眺めながらのテラスでの食事。今ではその時間が岡田夫妻の最も楽しいひと時となっている。

「クーラーはありません。夏はまわりの緑が自然のクーラーです。」オープンな空間でありながら冬でも快適に過ごせるのは、熱と空気をデザインする「OMSOUR」のお陰でもある。寒い冬でも底冷えせず、夏の夜も涼を取り込める優れものなのだ。

場所を読み、地形を活かし、自然に寄り添うことで一体になれる家。岡田邸では今日も壮大なライブが二人を楽しませている。





未来のために

今、私たち創建ができること。

かけがえのない自然を守り、誰もが健康で安心して暮らせるように

私たちは自然と共生する町づくりを目指しています。

この先何年、何十年と続く子ども達、そしてその先に続く未来まで

健やかに暮らせる心休まる場所となるように

綺麗な空気と豊かな自然を守っていくことも私たちの使命です。

“土地を活かし、人が集い、町が輝く”ために——。

町の未来を考える。私たちは創建です。

土地開発やマイホームのことならなんでもお気軽にご相談ください



豊かな暮らし…かなえる住まいづくり

株式  
会社

創 建

住宅事業部

☎042-794-2311

建築事業部

☎042-792-7887

〒194-0037 東京都町田市木曽西3-9-3

<http://www.soken-re.com>

町田 創建

検索 🔍

宅地建物取引業 東京都知事(6)第70091号 / 一級建築士事務所 東京都知事登録第56506号 / 特定建設業 東京都知事許可(特-27)第135277号